

ペラグラの際の眼症状

西山 進 三上 英郎 松下 和夫

(大阪高等醫學専門學校眼科學教室 主任 江原教授)

ペラグラは所謂 3-D-Symptome (Dermatitis, Diarrhoe, Dementia) を主徴とする疾患で、Kaspar Casal (1735) により初めて一獨立疾患であることを認定せられ、後に Frapolli (1771) によりペラグラ Pella-gra と命名されたもので、もともと玉蜀黍を主食とする地方に多發すると云はれてゐる。本邦では櫻根-山田氏(明治43年)以來、今日まで200餘例も報告されてゐるが、それに伴ふ眼症状に就ては比較的記載少く、林氏(2例)(大正13年)以來、國府田、高橋(6例)、高澤、小島-島田の諸氏による合計11例が見られるのみである。私達は最近本校皮膚科を訪れたペラグラ患者2例を眼科的に檢索するの機會に恵まれ、甚だ興味ある結果を得たので、ここにその概略を述べる。

全身所見 第1例 …35歳の女子、初診は昭和17年4月24日、遺傳的關係、既往症には特記すべきものなし。1) 皮膚症状 約1ヶ月前より兩側手背、及び前肢末端屈側に紅斑を生じ、水泡を形成せず、2) 消化器障碍 脚氣様症状を主とす。3) 神經症状 睡眠障碍あり、非常に興奮し易く、また疲勞し易い。診療を拒否し、智能の減退を來せるにあらざやと思はれる程である。その他軽度の貧血あり。ビタミンB複合體を投與す。

第2例 …33歳の女子、初診は昭和17年5月7日、遺傳的には特記すべきものなきも、既往症としては4年前腸チフスに罹れることあり、生來頑健とは云ひ難い。約1ヶ月前より心臟衰弱の如き症状あり入院した。1) 皮膚症状 約1週間前より比較的急激に手背、足背に疼痛を伴ふ發赤を生じたと云ふ。現在主として紅斑、その他糜爛、水泡、出血、痂皮化の著明に見られるのは、つぎの個所である。イ) 手背(相對性に、着物の袖を境として健常部と明瞭に一線を劃してゐる。手掌は全く健常)。ロ) 足背。ハ) 顔面(特に鼻根から内眥部、また顳骨部)。ニ) 口唇及び口腔内(舌も發赤腫脹)。ホ) 頸部(左側頸部より左耳翼)。2) 消化器障碍全體として脚氣様症状ありて、本邦ペラグラの特徴を示してゐる。入院一ヶ月

前より下痢あり、漸次増悪し、入院當初の1週間は1日15-20回、その後1日3-7回に減じて來てゐる。惡臭甚だしく、腸内の腐敗酸酵強きを思はせる。3) 神經症狀 入院當時は心神喪失せる如く見受けられたが、他症狀の快方に向ふとともに漸次落着いて來つゝある。その他に強い貧血(赤血球133萬、血色素量33%)、心臟障碍、發熱(入院後約1週間は38°C-39°C、目下は37°C臺)が認められる。これ等の症狀はビタミンB複合體、B₁、B₂複合體(アベラグリン)、葡萄糖、強心劑、健胃整腸劑の内服あるひは注射により漸次輕快しつゝある。

眼所見 第1例…約1ヶ月前よりの複視を訴ふ。R. V. = 0.7, L. V. = 0.2 兩眼ともに正視、近點は14-15 cm.

第2例…患者自身は眼が悪いことに氣付いてゐなかつたが、検査の結果種々の眼變狀を發見した。R. V. = 0.7強, L. V. = 0.1強, 近距離視力は R = Nr. 5, L = Nr. 6, 兩眼ともに正視。

以下の表によつて、兩例各々の症狀を示さう。

表1 眼附屬器及び前眼部變化

		從來例(11例)	第1例	第2例
眼 險	紅 斑	+(1例)	-	+(兩)
險結膜	貧 血	-	-	+(兩) ¹⁾
	濁 濁	-	-	+(兩)
球結膜	ビトー氏斑	+(1例)	-	-
	色素沈着	+(1例)	-	-
	フリクテン様發疹	+(1例)	-	-
	ヘルペス	+(1例)	-	-
角 膜	表層瀰慢性濁濁	-	-	+(兩) ²⁾
	ヘルペス	+(1例)	-	-
	知覺鈍麻	-	+(兩) ³⁾	+(兩) ³⁾
虹 彩	癒 着	+(1例)	-	-
瞳 孔 ⁴⁾	對光反應遲鈍	+(1例)	-	-
	左右不同症	+(1例)	-	-
	偏位症	-	-	+(左)
	歪形	-	-	+(左)

註1) 強度にして、血液像の結果と一致する。

2) 初診時にはかなり強度であつたが約10日間の治療により大分輕微となつた

3) 兩例ともに著明で、この症狀の報告は私達が最初である。

4) 兩例ともに瞳孔は縮少(約3 mm)。

表 2 眼底變化

		從來例(11例)	第 1 例	第 2 例
乳 頭	發 赤	+(1 例)	—	--
	蒼 白	+(2 例)	+(兩) ⁵⁾	—
	萎 縮	—	+(兩)	—
	帶 黃	—	—	+(右) ⁶⁾
	境界不鮮明	—	—	--
	コ ー ス ス	--	—	+(右)
網脈絡膜	病 變	+(1 例)	—	! (兩)
	出 血	—	—	! (左) ⁷⁾
	色素沈着	—	—	+(右) ⁸⁾
	豹 紋 狀	--	—	+(右) ⁸⁾
	黃斑部異常反射	+(1 例)	—	±(右)
中心動脈	細 少	--	--	±(右)
中心靜脈	怒 張 擴 大	+(1 例)	—	+(右)

表 3 視野狹窄, 中心暗點各種機能障礙その他

	從來例(11例)	第 1 例	第 2 例
乳頭黃斑型その他の中心暗點	+(1 例)	! (右) ⁹⁾	±(兩) ⁹⁾
求心性視野狹窄	+(4 例)	! (兩)	! (兩)
球後視神經炎診斷	! (2 例)	! (兩)	?
眼筋麻痺乃至眼球運動障礙	+(1 例)	! (兩) ¹⁰⁾	—
調節輻輳麻痺	--	! (1)	—
複 視 訴	+(2 例)	! (兩) ¹¹⁾	—
眼精疲勞	+(3 例)	! (兩)	—
色 視 障 碍	+(2 例)	--	--
夜 盲 症	+(1 例)	—	—

5) 耳側半分にみられた。

6) 甚だ特異なる色澤を呈してゐる。

7) 乳頭より約二乳頭徑半離れた上耳靜脈の傍に楔形の一個の小さい出血斑がある。

8) もともと豹紋狀眼底の上に、ある種の病變による色素の滲出のために眼底全體として混濁し、帶黄色の特徴ある所見を呈してゐる。

9) 兩例ともに河本式中心暗點計のみによる成績で、患者は神經症狀強く、カムピメトリー検査を嫌悪するので正確なる測定は不能である。

- 10) 全外眼筋の麻痺で、あらゆる方向に約 35° - 40° の眼球運動の障害がある。但し顔面神経は異常がない。
- 11) 殆ど完全な輻輳麻痺である。
- 12) 複像検査の結果、側方をみた時に著しいことがわかつた。

總括

私達は二名のペラグラ患者に於て甚だ多種多様な眼症を呈してゐるのを見出した。特に従來ビタミンB不足が重要な役割を演ずると考へられて來た主要症候(例 角膜表層の滲浸性濁濁、球後視神経炎症狀外眼筋麻痺等)が殆どすべて揃つてゐるのは注目すべきで、この中には今後ビタミンと眼疾患との關係(例 ビタミン B_2 不足と球後視神経炎との關係)を究明する上に参考となるべき種々の問題が潜められてゐる譯である。現在本病の原因としては玉蜀黍中毒、アルコール中毒 傳染説、光力學的作用、蛋白代謝障碍、一般營養障碍、ビタミン不足等多々云はれてゐるが、私達の例で全身的にいづれも脚氣様症候を伴ひ、かつビタミン B_1 、 B_2 複合體投與により比較的短期に輕快した事實は、ペラグラが明かにビタミンB(特に B_2)と深い關係を有することを證明してゐる。また一方、着物の袖を境として餘りにも明瞭に患部と健常部とが劃されかつ手背、足背の紅斑が著明であるのに、手掌、足趾の全く健常であるのは光力學的作用も確かに本病發現に關與する一因子として忘却してはならないことを示してゐる。さらに最近の研究^{1,2)}では本病の際に血清、あるひは尿中に Porphyrin を證明し、かつこの際に Nicotin 酸を投與すれば、本病が輕快し、これ等の Porphyrin も消失すると云ふ知見が得られた。従つて Nicotin 酸の缺乏が光力學的作用と密接な關係を有するものと思はれ、ペラグラ發見の因子としてビタミンと光力學的作用は全然相異なるものではないと云ふことが考へ得られる。

[さらに一例附加の上、詳細を日本眼科學會雜誌に發表の豫定]

(受附：昭和17年5月22日)

- 1) 卜部：皮膚科泌尿器科雜誌。49卷，46號；50卷，1,4號。
 2) 平松，細田：體性。28卷，4號。
 3) 小島，島田：日本眼科學會雜誌。45卷，3號。